

■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」①

「QBは北星」と言わせたい

中手 龍一（北星学園大、4年）

春季オープン戦が終わったばかりの7月18日、札幌市厚別区の北星学園大グラウンドでパイレーツの練習が始まった。日中の暑さも一段落した午後5時すぎ、選手6人とスタッフ7人が集まり、佐々木魁主将（4年）の声かけでウォームアップを行うと、ポジション別に分かれての練習メニューに移った。エースQBの中手龍一（4年）は控えQBの山下唯月（2年）とショートパスを投げ込む。しなやかなフォームから鮮やかな軌道のボールが飛び出した。肩が温まると、20ヤードのロングパス。さらにエースWRの中田大翔（3年）をターゲットに「10ヤードイン」「5ヤードアウト」のコースとタイミングの確認を念入りに行った。「DBのカバーに応じて投げる、投げないを判断するんだ」。後輩QBの指導にも力がこもった。



180センチ、75キロのバランスの取れた体に「50ヤードは投げられる」という肩の強さが持ち味だ。中学で野球部、札幌静修高では軽音楽部という異色の経歴だが、大学入学後に熱心に勧誘されてアメフト部に入り、パス能力を見込まれて1年生の冬からQBの練習を始めた。先輩QBの卒業で、2年生の春から先発を務める。2年生秋の北海道学生選手権は新型コロナウイルスのためにトーナメント開催となり、北星学園大は初戦敗退でパス獲得ヤードも70ヤードにとどまった。リーグ戦が再開された昨年、チームは棄権1試合を含む4敗1分けに終わったが、4試合で612ヤードを投げ、4TDと急成長した。学連が公式記録を公表しなかったが、獲得ヤードは堂々のリーグトップ。18-21で惜敗した釧路公立大戦ではパスで277ヤードを獲得し、2TD。「負けたけれど、オフェンスの良さを見せられた。QBとして及第点」と確かな自信も得た。

そして迎えるラストシーズン。4年生の自信と覚悟が言葉の端々にのぞく。「今年は北大も北海学園大もQBが新しくなる。経験のある4年生は自分だけ。『QBは北星』と言わせたい」と決意する。プレーコールをサイドラインに頼らないのも自慢だ。「自分に責任がのしかかるプレーを選ぶ。負けても悔いが残らないから」と言う。「パスはテンポ良く、正しいチョイスで。成功率70%、1試合150ヤードは獲得したい。QBランも増やしたい」と、今季の目標を付け加えた。